

志、挑戦、そして未来へ。



多様化する未来で活躍できる、魅力あふれる人材を育成します。

佐賀大学は1949年の創設以降、地域が求める人材の育成に継続的に取り組み、6万人を超える多くの人材を輩出してきました。

近年では2003年の佐賀医科大学との統合、2016年の佐賀県立有田農業大学校との統合等を経て、6学部6研究科を有する国立総合大学として、教育・研究・社会貢献活動を展開しています。

佐賀市内に本庄・鍋島の2キャンパスを有するほか、芸術地域デザイン学部の設置に合わせ、「有田焼」で著名な有田町に新キャンパスを設置するなど、地域に根差した教育環境を整え、皆さんをお待ちしています。

これからの時代を担う皆さんには、グローバル化が進み、多様化する将来を見据えた教育が必要です。大学生活の中で専門分野の学びを深めるのはもちろんのこと、プログラミング技術などのITの知識や、地域が抱える課題を解決できる実践力、チームで議論し協力し合える協調性など、人間力を身につけることが求められます。

本学は「志、挑戦、そして未来へ」をキャッチフレーズに、志を持つ皆さんがキャンパス内外での様々な挑戦を通して、予測困難な未来においても活躍できることを期待しています。

ぜひ本学での生活の中で、自らを向上させ、世界で活躍する人材へと成長して下さい。

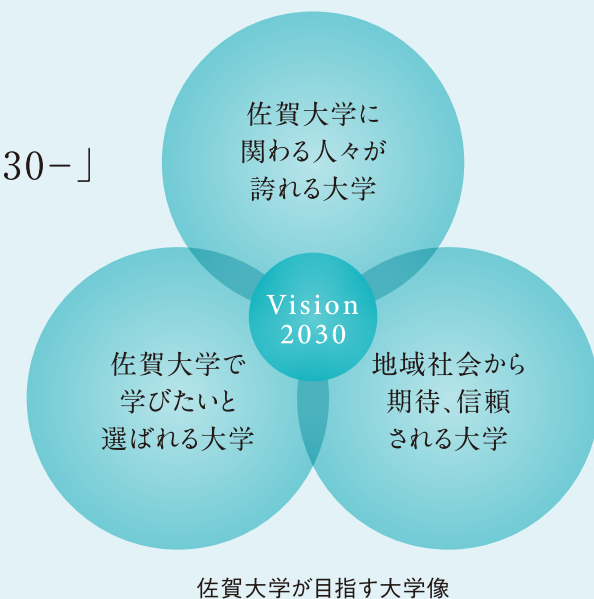
佐賀大学 学長 兒玉 浩明

佐賀大学の将来構想

「佐賀大学のこれから –ビジョン2030–」

佐賀大学では2030年に向けた将来構想として、教育、研究、社会貢献、大学運営の4領域からなるビジョンを2020年4月に策定しました。

第4次産業革命やSociety5.0といった新しい社会、予測困難な時代の中で、今後10年間高等教育機関として本学が進むべき方向性を位置づけ、3つの大学像の実現を目指し活動していくこととしています。



2030年に向けた取組例

1. 次世代型研究



世界注目の海洋エネルギー開発など 未来と世界を見据えた研究を拡大

急激に変化する時代に対応するために、社会に応える分野横断的な研究に取り組んでいます。世界最高水準の出力を可能にし、カーボンニュートラルの実現にも寄与する「ダイヤモンド半導体デバイス」の開発をはじめ、海洋エネルギー研究所では次世代のクリーンエネルギーとして地位確立を目指すなど佐賀大学の立地や特性を活かし、多分野・多方面で研究を進めています。



海洋エネルギー研究所 (伊万里サテライト)

2. 地域活性



今の、そして未来の佐賀のために 佐賀大学の持ち味をいかに発揮

県内唯一の国立総合大学として、地方自治体や産業界と連携しつつ地域課題の解決に取り組んでいます。県内で様々な取組を開始しており、「地域防災減災研究プロジェクト」では、近年頻発する甚大な災害に対し、地域と連携して防災・減災に取り組んでいます。また、鹿島市において「鹿島プログラム」を立ち上げ、「町並み再生保存」「文化・伝統芸能保存継承」などの6つの研究テーマで、伝統的町並みの保存・活用などに地域と連携して取り組んでいます。



理工学部・三島伸雄教授と平瀬有人准教授の設計による鹿島市の肥前浜駅舎

3. 生涯学習社会



いつでもだれでも学べる環境を整え 「学びたい」「やりたい」を応援

学生向けの正規科目の一部を、学生と共に一般の方が学ぶ「授業開放」や、佐賀大学の「知」を地域に還元する「公開講座」、潜在助産師の学び直しや働きを支援する「佐賀県助産師リカレント教育プログラム」など、誰もがいくつになっても、主体的に興味を持って学び続けられる場を提供しています。また、オンラインと対面のハイブリッド授業を充実させるなど、より良い学びのカタチを追求しています。



ハイブリッドで開催した公開講座「都市の防災・減災」

4. 先端医療



地域医療を先端技術と地道な研究で支え 健やかな人生100年時代を目指す

県内唯一の医師養成機関である佐賀大学の役割は重要であり、地域医療の発展に大きな期待が寄せられています。人工股関節置換術や眼科手術用染色剤の開発が国内外で注目を集める一方、佐賀市民を対象としたコホート研究など地域に寄り添った取組も実施しています。さらにIoTも積極的に導入しており、眼底画像のAI診断プログラムや術前中止薬管理Webアプリの開発など、未来型医療を推進しています。



わずか15分ほどで県内全域に到着可能なドクターヘリ